

開催地名：富山県富山市	
開催日時	令和2年2月12日（水） 13：30～15：30
開催場所	富山県農協会館
語り部	山田 修生（宮城県仙台市）
参加者	市職員、地域住民、自主防災組織 約400名
開催経緯	<p>近年、大規模地震や、風水害が日本全国で多発している。本市においても、昨年の平成30年7月豪雨では3万世帯以上に対して避難準備情報を発令したことから、災害の怖さを身近に感じた市民の防災意識が高まっている。</p> <p>しかしながら、本市は近年、災害による大きな被害が少なく、災害の実体験を継承する機会が少ないため、災害時の対応に遅れが生じることが懸念される。このため、「災害伝承10年プロジェクト」の講演を通して、災害の教訓などを身近に感じ、災害対応能力の向上を図りたい。</p>
内容	<p>（1）震災発生時の諸問題</p> <p>東日本大震災発生時、自分がどう動けばいいのかわからず、震災前にそれなりの準備や訓練をしていて知識はあったが、まったく活用できなかったと言える。事前に準備していたように町内会単位での避難はできず、近隣の数世帯ごと、家族単位、個人単位での避難がほとんどであった。これが現実である。</p> <p>大地震の前には震度2～4程度の地震が何回かあるのが一般的である。その際、横揺れについては心配ないが、東日本大震災では地下から「ゴォー」と音がして縦揺れ、横揺れ、斜め揺れと、すごい揺れが継続した。家の中ではテレビが数メートル移動し、家具は倒れ、物が床に散乱した。なるべく家の高い所に、厚底の靴を置いておくことが望ましいと思う。（地震が発生したらその靴を履いて行動する）</p> <p>水道管の破裂等でマンション内ではあらゆるところが水浸しとなっていた。電線が垂れ下がり、感電の危険がある中、着のみ着のままで避難したのが実情である。その際に携帯電話とバッテリー、携帯ラジオ、懐中電灯、電池、常備薬等を持ち出せると避難先で有効である。（携帯ラジオは避難所では唯一の情報源となったし、大き目の懐中電灯は天井に向けると全体がぼんやりでも明るくなる）住宅事情にもよるが、家の中で一部屋だけ家具を置かない部屋があれば、家族がそこに集合できるので便利である。</p> <p>（2）避難所運営について</p> <p>避難所では名簿班、総務班、情報広報班、救護班等に役割を分担するのが望ましい。とりわけ総務班は、地域ごとのスペースの割り振りを担当するが、ダンボールで各自の区分を仕切る際に、必ず世帯ごとに、他の世帯を通らずに通路に出られるようなレイアウトで設定することが大切である。情報広報班も重要な</p>

役割を担う。伝達事項は必ず全員に伝える必要がある。そのためには情報を掲示板に貼り出すことが有効である。さらに、紙にマジックで良いので避難者の名前を全員書き出して掲示してほしい。これは安否を確認しにきた人のためにも役立つ。また、避難者名簿を扱うのもこの班だが、くれぐれもプライバシーには注意してほしい。むやみに避難者名簿を配らないことである。食料については避難者全員への配布が大前提である。全員分が揃うまで一切配らないことが大切である。

(3) 被災者支援について

自宅避難者への対応について、特に注意をお願いしたい。小学校、中学校の指定避難所に避難しないで、自宅にとどまると主張する方が、特に高齢男性の方を中心に一定数存在するはずである。避難所に行けば食料等も提供されるが、自宅に残っている方は、どうしても忘れられてしまう。自宅に残った方々の情報もしっかりと把握した上で、物資の供給等を行っていただきたいと思う。高齢者の一人暮らしについては、単独で避難できない方もいらっしゃるので、十分な注意喚起をお願いしたい。

(4) 震災から学んだこと

身に付けた知識、経験の全ては決して裏切らない。1回経験したこと、あるいは、1回自分で行ったことは必ず役に立つ。防災訓練、避難訓練については、役に立たないと思わずに、いざとなったら必ず役に立つと考えて、積極的に家族全員で参加していただきたい。日頃の取組が、災害時にあなたを助けてくれる。今日から取り組んでいただきたい。



開催地より

災害の体験談・教訓に関することや、避難所運営に関する事など、とてもわかりやすいお話であった。防災訓練も平日の災害発生を想定した内容で行い、女性や高齢者など多くの方に参加してもらおう等の工夫をしたい。